

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 連携：熊本市教育センター
コラボ研修プログラム	事業名： Kumamoto Education Week 2022-23 タブレットを活用した創造的な学び ～小学校編・中学校編・家庭学習編～
支援事業報告書	研修等名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 タブレットを活用した個別最適な学び ～創造的な学びで才能を生かす～ 開催日時：令和5年1月22日 13時～ 開催場所：オンラインYouTube配信 熊本大学（熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号） 参加人数と参加者の属性： スタディ編 433人 アート編 212人 エージェンシー編 184人（2023年2月21日現在視聴人数） 保護者・学校関係者・教職大学院関係者 児童生徒他

内容： ※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

スタディ編・アート編・エージェンシー編に分け、それぞれ30分間の動画を作成し、1月29日に配信を開始した。そのあとも視聴することができる。各編とも、前半で具体的な児童生徒の作品を見せながら、制作過程や制作後の話題提供をいただき、後半で具体的な作り方を、iPadを操作しながら紹介した。

○スタディ編（学校で学習したことを充実・発展させるために、アイデアを生かした「創造的な学び」を深掘り）

（実践紹介）宮津 光太郎 指導主事（熊本市教育委員会総合支援課）

山下 若菜 指導主事（熊本市教育センター）

○アート編（様々な学習活動において、自分ならではの感性を生かした「創造的な学び」を深掘り）

（実践紹介）山田 光太郎 指導主事（熊本市教育委員会総合支援課）

井手尾 美樹 指導主事（熊本市教育委員会総合支援課）

○エージェンシー編（総合的な学習の時間などで、社会課題解決のために自分の主張を行う「創造的な学び」を深掘り）

（実践紹介）田口 恵子 校長（熊本市立桜山中学校）

水田 貴光 校長（熊本市立北部中学校）

（作品の作り方の紹介）山口 修一 先生（熊本市教育センター）

（聞き手）前田 康裕 特任教授（熊本大学）

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

・作品の紹介だけでなく、その制作過程の話がとても興味深かった。ICTを活用した制作を通して、児童生徒の学びや、学びのための教師の役割についてじっくり考えることができた。

・作品のクオリティが高く、なかなか同じような取り組みができないと感じていたが、作品作りを促す教師の働きかけを知ることができ、担任する子どもたちと取り組んでみようという気持ちが高まった。

・作品を制作することも価値があるが、制作するまでに友達と話し合ったり、自分のこだわりを実現するために追求したりする大切さを感じた。

・実践者の具体的な話と、制作方法のレクチャーがセットとなっていることで、とても分かりやすく感じた。

・小学生の我が子がセミナーを見て、自分も作ってみたいと言っていました。学校だけに任せるのではなく、家でもできることからICTの活用に取り組もうと思いました。（保護者）

・保護者にも分かりやすく、現在の学校が目指すものが見えてきたように感じました。（保護者）

・簡単でなさそうだけど、自分も作って、多く人に見てほしいと思いました。（小学生高学年）

アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

・参加者のニーズに応じるテーマの設定を行い、教育関係者だけでなく、保護者や児童生徒にとっても満足度を高めることを心掛けた。そのためにも、できるだけわかりやすい言葉で語りかけることを心掛けた。

・具体的な作品を紹介し、実際に取り組んでみたい、取り組ませたいという思いを高めることを目指した。

・熊本県内の全小中学校へのチラシの配布、SNS等での全国への呼びかけを充実した。オンラインということもあり、県外からの参加者、継続しての参加者も多くみられた。

・1月29日の配信だけでなく、そのあとも視聴できるようにすることで、「創造的な学び」の広がりを目指した。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

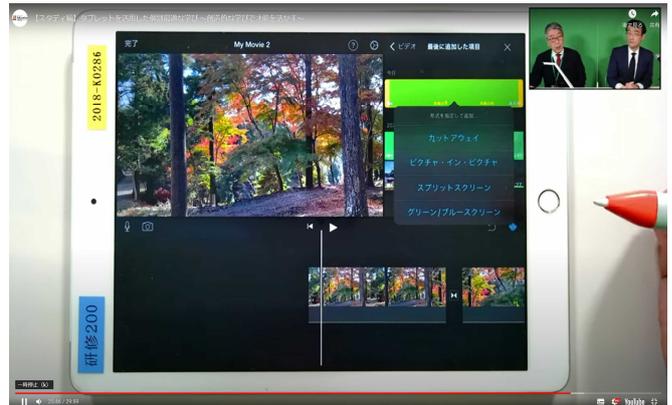
タブレットを活用した個別最適な学び ～創造的な学びで才能を生かす～

1人1台のタブレット端末を活用し
「つくることよって学ぶ」
「つくるなかで学ぶ」
ことにより注目される『創造的な学び』
具体的な取組の紹介や対談とともに、
制作方法をお伝えします。

スタディ編	アート編	エージェンシー編	
 熊本市教育委員会 総合支援課 宮津光太郎	 熊本市教育委員会 総合支援課 山田光太郎	 熊本市立板山中学校 田口恵子	 制作方法指導 熊本市教育センター 山口修一
 熊本市教育センター 山下若菜	 熊本市教育委員会 総合支援課 井手尾美樹	 熊本市立北部中学校 水田真光	 コーディネーター 熊本大学 前田康裕

Kumamoto EduAction Kumamoto Education Week 2022-23 #みんなの夢が未来を創る

<3編とも後半に熊本市教育センターの山口修一先生による「作品の作り方の紹介」を行った>



スタディ編（学校で学習したことを充実・発展させるために、アイデアを生かした「創造的な学び」を深堀り）



アート編（様々な学習活動において、自分ならではの感性を生かした「創造的な学び」を深堀り）



エージェンシー編（総合的な学習の時間などで、社会課題解決のために自分の主張を行う「創造的な学び」を深堀り）



すべてオンラインのため、参加者の表情がわかる写真はありません